

豊和地区

豊和村は、一八八九年（明治二十二年）四月に大寺、飯塚、内山、米持（よねもち）の四か村合併により成立し、新村名は「村民の豊富、平和を念願」して付けられました。

明治初年から大寺、飯塚、米持の三か村は連合しており、内

山村は飯高村など七か村連合に加わっていました。合併にあたり飯塚村連合が当初鶴木村（旧干潟町）連合との合併案もありましたが、内山村が飯高村連合から離脱し、この合併に加わり話し合いは順調に進みました。

合併直後、「小学校は三か所（大寺、飯塚、内山）」にある状態にあり、村の中央に新築しか所」にまとめられることが課題で、新校舎完成までその後二十年ほどかかりました。これが現在の豊和小学校です。

かつての用水池が今では農村公園として親しまれている

豊和村の豊かな農家では新聞購読者が多かつたようで、明治二十年代の村のうごきが知られます。旧三か村には郵便箱が設けられ郵便が進んでいたこと、内山村などの医師数人が「施薬社」を組織し、生活に困っている患者に無料診察券を配ったこと、鉄道馬車の運行をめざす動きなどが報じられています。一九二二年（大正十一年）

には八日市場、大寺間で乗合自動車が行き交いました。

丘陵地に集落が営まれた豊和地区の村むらには、古代の遺跡もあり、歴史に取り上げる話題も数多くあります。

その中で、米持集落について紹介します。この集落は、一六九六年（元禄九年）に榑湖の開拓によって生まれた新田十八か村の一つとして誕生しました。当時の村内の土地所有者一三三名のうち、一〇二名が飯塚村の人で、隣接していることもあり同村との結びつきがありました。一四〇年ほど前の家数は五軒でした。

近年、ふれあいパークの開設により景観に変化が見られるようになりました。かつての榑湖に面したこの周辺には、地方豪族を葬った七世紀初頭の大規模な関向（せきむかい）古墳がありました。干潟干拓の後、用水源として一四の溜池が掘られ、蛭田（ひるた）や馬洗（まあら）い池、そして用水路として惣堀（そうぼり・総堀）など大工事の名残が感じられます。

地域の歴史を知ること、奈良時代の創建と伝えられる大寺・龍尾寺、干潟を見渡せる飯塚・松峰神社などパークと一体化した散歩道は興味がわきます。

（生涯学習課）